

令和 7 年度郷原中学校区研究推進計画

校番 (6) (呉市立郷原小) 学校

校長名 大塚 加奈

- 1 学校教育目標
夢と志をもつ、自律した児童生徒の育成
- 2 目指す児童生徒像
気付き、考え、行動する郷原っ子
- 3 育成を目指す資質・能力 (具体の姿)

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等		学びに向かう力, 人間性等	
	分かる・できる	考え・決める力	伝える力	進んでやる力	やり抜く力
後期	各教科等に関する知識や技能を活用することができる。	実社会や実生活に結びつく複雑な事象における課題について、多面的・論理的に考え、客観性・信頼性を吟味し、目標や計画などを決めることができる。	考えたことや決めたことなどを、根拠の適切さや論理の展開に注意して、伝え合うことができる。	目標を明確にし、課題の解決に向けて見通しをもって、計画的、協働的に実行することができる。	課題解決を願い、共通の高い目標を設定し、困難や失敗を乗り越えて、着実にやり抜くことができる。
中期		実社会や実生活に結びつく複雑な事象における課題について、考える技法を適切に使いながら筋道を立てて検討し、自分やみんなの目標や計画などを決めることができる。	考えたことや決めたことなどを、相手や目的に合わせて適切な方法で伝え合うことができる。	課題解決に向けて決めたことなどに、計画的、協働的に進んで取り組むことができる。	課題解決を願い、共通の目標に向かって、困難にくじけることなく努力してやり抜くことができる。
前期		思いや願いの実現や、取り組む課題について、比較したり分類したりしながら筋道を立てて検討し、自分がすることやみんなですることなどを決めることができる。	考えたことや決めたことなどを、内容に合った適切な方法で相手に伝えることができる。	思いや願いの実現や課題解決に向けて決めたことなどに、進んで取り組むことができる。	課題解決を願い、自分で目標を決めて、やるべきことを粘り強くやり抜くことができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学び、自ら考え、判断し、表現できる児童生徒の育成
～関わり、つながる教育活動を通して～

(2) 設定理由 (校区の児童生徒の課題分析等)

呉市の学校教育では、「防災教育の深化」「授業改善の推進」「個を大切にした支援の充実」を重点施策に掲げ、時代の変化に対応した ICT の効果的な活用を取り入れながら、新しい時代に求められる資質・能力の育成を目指している。

本校区においては、課題として小学校で実施した学習アンケートにおいて、肯定的に回答した児童の割合が「授業では、自分の考えを進んで伝えている。」が74.9%、「授業では、自分の考えを理由をつけて発表している。」が68.3%、「授業で発表するときは、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫している。」が68.5%という結果であった。上半期と比較しても伸びが少なかったことから、表現力について今年度も課題があると考えます。

令和 6 年度全国学力・学習状況調査の数学科 (出口である中学校の結果) で「筋道を立て

て考え、証明することができる。」が全国平均より0.5ポイント高かった。広島県児童生徒学習意識等調査(中学校の結果)において「授業では自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。」の項目が広島県の平均よりも2.4ポイント低かった。これらのことから、「相手の立場に立って考え、自分の考えを整理して書くこと。」や「根拠をもとに考え、相手意識をもって表現すること。」に課題があると考えている。

これらを改善していくために「防災教育の深化」では、呉市学校防災週間等の適切なタイミングを活用して自分で考え、判断して行動できるように防災に関する知識や技能を習得させ、それを生かした体験的な活動を仕組んでいきたい。

「授業改善の推進」では子どもの主体的な学びを推進していくために、昨年度に引き続き、子どもの問いを生かした「考える授業づくり」の充実を図りたい。また、教育活動の中で自己を表現する機会を多く設定していきたい。

「個を大切にしたい支援の充実」では、一人一人の実態や思いに寄り添い、組織的な支援を行うために各種関係機関と連携して児童生徒の居場所をつくったり、他の人とつながりを大切にして自分の思いを表現したりするような支援を充実させていきたい。

本中学校区は、小中だけでなく、義務教育以前の幼児教育から一貫して、地域で見守る体制が整っていることや校区内に自然、文化遺産、歴史など様々な分野において専門性の高い人的資源が多く、ゲストティーチャーとして学校教育活動を協力的に支えてくださる環境も充実している。このことを十分に生かして、地域とのつながりの中で、人と関わり、他者理解、自己理解を深めながら、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を育成することを目指し、研究主題を「主体的に学び、自ら考え、判断し、表現できる児童生徒の育成～関わり、つながる教育活動を通して～」と設定した。

(3) 研究仮説

3つの重点施策への取組に課題発見・課題解決的な学びを仕組むことで、主体的に学び、自ら考え、判断し、表現できる児童生徒を育成することができるであろう。

5 研究内容

(1) 授業づくり部会 → (知)

<研究テーマ：考え・決める力（思考力）伝える力（表現力）の育成>

- カリキュラムマネジメントに基づいた授業づくり
- 課題発見・課題解決的な学びを促す授業づくり
- 振り返り等の中で自己認識を深める授業づくり

(2) 関わりづくり部会 → (徳・体)

<研究テーマ：発達段階に応じた多様な関わりを通して生き方を考える教育活動の推進>

- 防災教育・地域の学習材を生かした単元作りの充実
- 個別支援の充実（特別支援教育の視点や各専門機関との連携）
- 健康教育の充実（生活リズムチャレンジ週間）

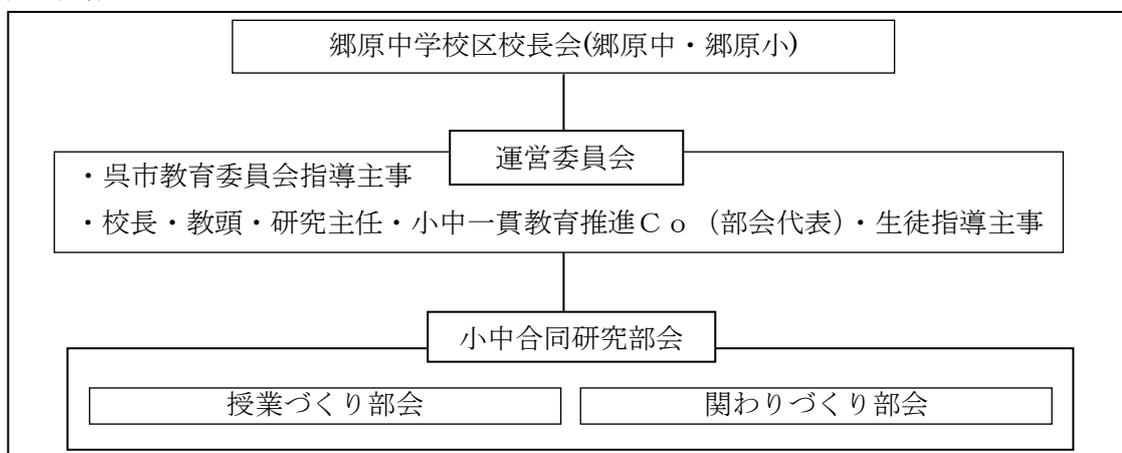
6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 課題発見・解決的な学びを仕組むことができたか。	学力調査アンケート	「生活科・総合的な学習の時間では、自分でやることを決めて、情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」の項目での肯定的評価	小78.9% 中89.3%	+3.0P以上
	小算数科実態調査アンケート	小「算数の学習がよくわかる」	小81.8%	小85%以上
	教職員アンケート	研究授業における教職員の相互評価値の平均（4段階評価）	小3.34 中3.14	3以上

② 表現力を育成することができたか。	児童生徒の振り返りの記述	3つの視点に合わせて振り返りを書くことができた児童生徒の割合	小22.1% 中30.5%	50%以上
	児童生徒アンケート	学習アンケート表現力の3つの項目に肯定的評価をした児童生徒	小70.8% 中63.6%	+3.0P以上
③ 児童生徒の学力が向上したか。	標準学力調査	学力調査の全国平均との比較	<国語科> 小 -2.3P 中 +1.9P <算数,数学科> 小 -4.2P 中 +4.5P	全国平均の +3.0P以上
	小: 算数単元テスト	小: 課題のあった問題	小: 上半期65.1% 下半期75.8%	小: 70%以上

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

- ア 乗り入れ授業等 英語科
イ 小学校教科担任制等 なし

8 推進計画

月 日	内 容		担当
	郷原中	郷原小	
4月21日(月)	運営委員会①(合同研修会①の確認)		小学校
4月30日(水)	小中合同研修会①:今年度の方向性・計画等		小学校
8月上旬	運営委員会②(合同研修会②の確認)		小学校
10月上旬	小中合同研修会②:授業研究		小学校
11月上旬	運営委員会③(合同研修会③の確認)		中学校
12月上旬	小中合同研修会③:授業研究		中学校
12月下旬	運営委員会④(本年度の取組の検証)		小学校
1月28日(水)	小中合同研修会④:本年度のまとめ,来年度の計画案検討		小学校
3月下旬	運営委員会⑤(来年度の方向性・役割分担の確認)		小学校

9 その他

- ・オープンスクール(8月)中学校生徒会による6年生への説明,授業参観
- ・陸上教室(10月)中学校教諭による小学生への実技指導
- ・クリーン活動(10月)地域の清掃活動を保小中で実施 ・小中一貫教育だより(年1回発行)

